

ホソオチヨウ

「チヨウ目 アゲハチヨウ科」

越辺川の土手では4〜9月、アゲハチヨウの仲間としては小さな蝶が優雅に舞っています。ホソオチヨウの雄です。羽化時の性比は一対一で、雄も雌も同数なので、雄は羽化した場所に留まり、羽化してくる雌と交尾します。交尾した雌は羽化場所



ホソオチヨウ 左：雌 右：雄

を離れ、幼虫の食草であるウマノズクサの生えている場所を求めて分散します。そのため発生地では、性比が雄に片寄るのです◆本種は人為的な帰化昆虫です。1978年7月、東京都日野市で、最初の雄を記録。以後姿を消しましたが、1979年から放蝶により、八王子市と山梨県大月市で見つかり、大月市では1980年、市の天然記念物に仮指定されましたが、駆除すべき帰化種を天然記念物にするという問題を含んでおり、本指定にはなりません。放された本種は、韓国からのものとされています◆埼玉県では1988年に所沢市で発生し、1991年頃から衰退して消滅します。本種は年に5回も発生する多化性の蝶であること、食草の生えた土手が草刈りにより打撃を受けても、生き残る終齢幼虫と蛹がいること、草刈りにより捕食寄生性のハチやハエが定着できないことなどが影響しているのか、越生町も含め、近年県内平野部で増加しています。

(巢瀬 司)

おごせアートミュージアム【越生小学校】



『エックのまち』
1年 金井遥慈くん



『きのこ村のクリスマス』
2年 仁平 紬さん



人口&世帯

2月1日現在
()は前月比

総人口：12,082人
(-11人)

男性：6,026人
(-5人)

女性：6,056人
(-6人)

世帯数：4,943世帯
(-2世帯)



【チエコ】

あとがき&裏表紙

次の4月号はNO666です。この記念号から、表紙と裏表紙を4色刷りにする予定です。これに伴い、カラーを活かしたレイアウトに変更したり、コーナーを一部変更したりします。また、毎月特集ページを組みます。現在、いろんな自治体広報紙や雑誌を読み漁り、サンプルを作っている最中です。なんとか発行までに、みなさんがしつくりくるような新広報おごせを完成させます。

今月の裏表紙は、ちびっこ駅伝からもう1枚。前日雪が降り、周りの山々が雪化粧していた日でしたが、子どもたちはその雪を解かすほどの闘争心を燃やしていました。そのおかげか、大会が終わるころには、すっかり溶け切っていました。